# ありがとう 小天東小

小天東小閉校委員会便り
No.7　令和２年１月１日
発行：小天東小閉校委員会

## 小天東小百周年の活動を回想して

百周年実行委員長　森本　和侍

いよいよ閉校の時も近づき、その式典に関わる役員の方々は、非常に短い期間でそのご苦労に敬意を表します。

百周年記念行事では前途に明るい光があり、今回とは根本的に異なるわけです。それでも資金もなく、しかも、全部寄付金での活動で身にしみるものがありました。

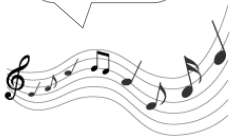
出発当初、私達は校歌の歌詞をもっと子ども達の理解しやすい校歌にしたいと考えましたが、校区内の先輩方より猛反発を受けました。校歌はそう簡単に替えるべきでないと認識していますが、替えるとしたら、この機会が最適と考えたわけですが、寄付金を頂く前の反対で苦境に立ちました。しかしこれも愛校心の表れでもあります。結局元の校歌は残して新しく記念校歌と言うことで、なんとなく折合が付きました。記念校歌は、作詞を熊日新聞社会部長の橋元俊樹氏に、作曲は岩代浩一氏に依頼しました。それからしばらくして、作詞が学校に届き、先生と役員で検討しましたが、心に響くものがなく江上校長がもう一度書いてもらう様に熊日へ出かけられ、其の後、第二作が出来ました。これ又、素人評ではありますが中学校向きの校歌のようで、あれだけ反対があって取組んでいることもあり、私も納得出来ませんでした。江上校長の立場としては、又、書き直しを頼みには行けないと云われ、会議の場も白けました。引くに引けないことになり、つまり自信はありませんが、私が行って相談してみますと云うと、当時音楽担当の大野先生（上有所）が私も一緒に行きますと云われ、午前中の会議でしたので中食をしてから一緒に行くことに決まりました。それから一時間もしない間に全く予期しない橋元先生から電話があり、もう一度作詞を書くから前の詞は待つようにかかって来ました。その時、私はこれで首がとばずにすんだと思ったものです。こんな経過をたどり記念校歌が誕生しました。其の他にも数々の難問がありましたが皆さんの協力で乗り越えることが出来ました。

小天東の校区の人達は学校を思う気持ちが強く、寄付金も千二百二十六万余円と高額に達したことはこの証しだと云えます。このお陰で事業も追加し滞りなく終わりました。その余剰金は記念基金として運用し、かなりの利益も出して、今後の閉校の催しに使って頂くことになりました。百周年の盛り上がりは、其の後、大きな力となり私共の背中を押して、体育館、運動場の拡張、そして新しい校舎建設と先頭に立って活動することが出来ました。

百周年で学んだことは「学校」とは子ども達の教育の場だけでなく、校区の人々の心を繋ぐ大きな力があることを悟らされました。又、子ども達も学業、スポーツ、音楽等に先生方の指導にもより、他校に優る存在だったことは誇りです。

閉校後は市当局、教育委員会もこの事に留意し、今後の施策を考えて欲しいと願うものです。

有明の海が光るよ
みんな仲よし丘の上



小天東小
閉校記念式典の
ご案内

◇日時◇　令和２年２月22日（土）午後１２時３０分～
◇場所◇　小天東小学校　体育館